



大樹

TAIJU



SL 復活運転プロジェクト

東武鬼怒川線 SL大樹

東武鉄道株式会社

TOBU



日光・鬼怒川エリアを中心とした新たな「地域の観光活力創出」

奥深い歴史と文化、それを育んできた豊かな自然が共存する日光・鬼怒川エリア。沿線地域の足としての役割を担う当社は、この地域と共に歩んでまいりました。人口減少や社会構造の変化等により、地域創生に向けた動きが進む中、下今市駅構内において旧転車台の遺構が確認されたことをきっかけに、「SL復活運転」という挑戦が始まりました。

この鉄道事業者ならではの施策を展開することで、日光・鬼怒川エリアの活性化、ひいては東北復興支援の一助となることを事業の目的としております。

「鉄道産業文化遺産」としてのSLの保存と活用

我が国の大規模化に貢献した産業、交通、土木遺産は「近代化産業遺産」と総称されていますが、この中には歴史的な鉄道車両や駅舎、橋梁、トンネルといった鉄道産業文化遺産も多く含まれています。博物館を有する「東武」の特性を活かし、こうした「近代化産業遺産」の保存・活用を推進するために「活用なくして保存なし」という考え方のもと、当社として約半世紀ぶりとなる「SL復活運転」を推進してまいります。

この「SL復活運転」は、本事業の主旨にご賛同いただいた関係鉄道事業者様からのご支援・ご協力なくして実現は成し得ませんでした。かつてSL現役時代に使用されていた機関車や客車、転車台等を、全国の鉄道事業者様から貸与・譲渡いただくことで結集し、活用してまいります。



■蒸気機関車(SL)
C11-207/1両/JR北海道



■客車
スハフ14-1・スハフ14-5・オハフ15-1・オハ14-1・オロ12-5・オロ12-10/6両/JR四国



■ディーゼル機関車(DL)
DE10-1099/1両/JR東日本



■車掌車
ヨ8634/1両/JR貨物 ヨ8709/1両/JR西日本



—蒸気機関車(SL)—車掌車—客車—ディーゼル機関車(DL)—

SL検修員・乗務員の養成

当社の「SL復活運転」の主旨にご賛同いただき、SLを従来から運行し、知識・経験ともに豊富なJR北海道、秩父鉄道、大井川鐵道、真岡鐵道のご協力のもと、SL検修員・乗務員の教育訓練を行いました。当社社員による保守・運転を行えるよう、必要な知識や技術・技能の習得を進めると共に、鉄道技術の伝承に努めてまいります。



北海道にて教育訓練中の検修員



北海道にて教育訓練中の検修員



机上教育を受ける機関士



投炭訓練を行う機関助士



地域とともにお客様とまちをつなぐ「おもてなし」

SL復活運転をきっかけとした地域観光の活性化に向けた取り組みについて、地元地域にて協議会を設立し、地域を盛り上げていくための準備を進めてまいりました。SL大樹ならではの地域と一緒に「おもてなし」として、協議会を通じて「SL「大樹」にみんなで手を振ろうプロジェクト」を展開し、沿線住民とともにお客様の旅を盛り上げます。

また、SL大樹には、日光市観光協会の「SL観光アテンダント」が乗務し、個性を活かした日光市ならではの「おもてなし」でお客様とまちをつなぐ橋渡しを行い、SLの旅に彩りを添え、地域への回遊と広がりを生み出します。

SL大樹を地域の誇りとして、地域の宝として大事に育て、地域を訪れるお客様にSLの走るまちの魅力を発信し、地域の活力創出につなげてまいります。



の軌跡



■下今市駅転車台
旧長門市駅転車台/JR西日本



■鬼怒川温泉駅転車台
旧三次駅転車台/JR西日本



■下今市SL機関庫



■下今市駅



■下今市駅転車台広場



車両・施設概要

当社の「SL復活運転」の主旨にご賛同いただいた全国の鉄道事業者様から、車両等を貸与・譲渡いただきました。

SLの借り受け及び車掌車・客車の譲り受けは、車両等の鉄道産業文化遺産の保存実績のある東武博物館が行い、ディーゼル機関車の譲り受けは東武鉄道が行いました。また、JR西日本から、かつて国鉄で使用していた長門市駅転車台および三次駅転車台を譲渡いただき、下今市駅に長門市駅転車台、鬼怒川温泉駅に三次駅転車台を設置いたしました。

SL運転の拠点となる下今市駅の構内においては、駅舎の改修をはじめ、SL機関庫の新設、転車台を中心とした見学エリア「転車台広場」ならびにSLの仕組みなどを紹介している「SL展示館」の整備を行いました。



運転概要



| | | | | | |
|--------------|---|--|--|---------------------------|--|
| 運転区間 | 東武鬼怒川線 下今市～鬼怒川温泉間 | | 停車駅 | 下今市／東武ワールドスクウェア(新駅)／鬼怒川温泉 | |
| 所要時間 | 約35分／片道 | | 座席数 | 約200席 | |
| SL座席 指定料金 | 大人:750円 小児:380円 | | ※運転区間内一律料金となります。 ※別途、運転区間の運賃が必要です。 | | |
| 発売箇所 | ①東武線各駅(押上・寄居・越生駅および駅員無配置駅は除く) ②東武トップツアーズまたは主要旅行会社 | | ※各運転日の1ヶ月前の午前9時から購入が可能です。 ※駅券売機での発売はいたしません。 ※特急券チケットレスサービスはご利用できません。 | | |



-生まれ変わった下今市駅-



「昭和レトロ」を再現した下今市駅舎・ホーム

SL運転の拠点となる下今市駅の改修にあたっては、駅舎はもちろんホームにおいても、SLがかつて走行していた「昭和時代」の雰囲気を本格的に再現しました。駅舎は木造平屋建て、ホーム上駅名標やベンチも木製とし、番線表示や料金表のほか各種案内板においても、当時のデザインを調査し再現しました。また、SLの現役時代に乗客が煤で汚れた顔を洗うために使われていた洗面台や、東武線の昔のポスター、昭和30年代の下今市駅構内写真なども設置し、駅に降り立ったとたん、昭和時代へタイムスリップしたかのように感じられるほど、風情あふれる駅に生まれ変わりました。

なお、平成26年12月まで使用されていた旧跨線橋が、国の登録有形文化財に登録されたことを受け、旧跨線橋レトロギャラリーとして生まれ変わりました。



SL展示館・転車台広場

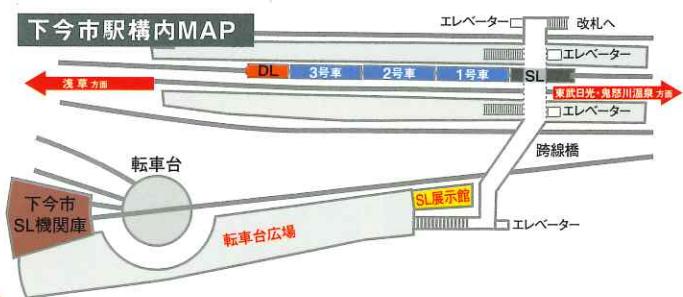
多くの方にSLや当プロジェクトについて知っていただけるように、下今市駅構内にSL展示館・転車台広場を新設しました。

SL展示館では東武鬼怒川線をモデルとしたジオラマを中心に、SLの実物大パネルを通じてその仕組みを分かりやすく解説しているほか、東武線のSLにゆかりのある各種展示物を揃えております。また、転車台広場では、SL編成車両の入換作業や、機関庫内で点検・準備中のSLを間近に見ることができるなど、大人からお子様まで幅広い世代にお楽しみいただける施設となっております。



| | | | | |
|-------|---------|-----------------------|-----|------------------------------|
| ご利用案内 | 営業・開館時間 | SL運転日 8:00 ~ 19:00 | 入場料 | 入場料無料ですが、乗車券または下今市駅入場券が必要です。 |
| | | SL運転日以外 10:00 ~ 16:30 | | |

下今市駅構内MAP



詳しくは東武鉄道SL復活運転プロジェクトHPをご覧ください。 <http://www.tobu.co.jp/sl/>

協力・支援:北海道旅客鉄道株式会社 東日本旅客鉄道株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 四国旅客鉄道株式会社

日本貨物鉄道株式会社 真岡鐵道株式会社 秩父鉄道株式会社 大井川鐵道株式会社 東武博物館